八遍

太平記

リ 5
2754
5

伊勢門
新 2754
巻 5

太平記を宵の月源

[illegible]

第十一 ▲ひんどめのくず 付 日本滝のくず

[illegible]

第十二 ▲ゑぼしのくず

[illegible]

第十三 ▲ひんの緒もぶとくず

[illegible]

第十四 ▲塗りやりくず

[illegible]

▲[illegible]のる　付[illegible]

▲[illegible]のる

▲[illegible]のる

▲[illegible]のる

▲[illegible]のる　付[illegible]

▲[illegible]のる

▲[illegible]のる

▲[illegible]のる　付[illegible]

▲[illegible]のる

▲[illegible]のる

▲[illegible]のる　付[illegible]

▲[illegible]のる

▲[illegible]のる

▲[illegible]の事　付　神西入道[illegible]

▲山門[illegible]の事　付日吉神[illegible]の事

[illegible]

つゝしゝ者ども。四門の大歌こゝろをしるべし
とゝのひたるこゝろざしのこゝろ。なぐさめ慰む國せ
ば開こゝろ。ものがたりもせざるもれば。さきの
しきたりにもれぬ。ものゝこゝろ。何しも。新田れんぜ
ぬおとゝのこゝろ。ものゝこゝろ。
くめ。しもぶくろ乃ゝ。ゝ長。紙よ。ゝろまで
東坂。ゝよ。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちそくそくとうとくひぞくこうじ二人がふこ
けるかはるよりこの戸ぎらべはそたはまうぐ
ひとりをぶこ二人はくるかぐ和のようなきお藤
あるとよりおりトにはうこうびろうが中行ち
ぶくこにあくあ方のたの庭へぞ表ろろろぶ式
あ十四の祖俗法和尚の前よりろまぞ世摩
乃家の祖とひすびそ肩ようけ。海摩の利汎とひ
つうけぞひうみ殺よううとかりく命を能薬ち
を掃くしぞうをきうひろろれ。にぶのてのお号
すこかひそ。四ものぞけ。けり谷に。今三ぶぐろよ
えあをこっれやすめくそうこ三へろあ。にちのう
ちうろん大雑ぎこの縄とあるぞ本のちをは
ぎうけうろ。藻の学こかくうんとてぶ。あ行へ
むうれうろうつのあれ。き能よわうを
あるをあ兵ぐを表ろ宇兵とる縄ぞ上義
りこよれくをうろ。彩四五中ねうー奥六ま
きと幸ぞ四明のこへくをてそ紀俗お恵と虎
稲のすまを。四。大飯と魚鏡よっ縄くゆ川
うこよれけをうろ。にぶよ廿万鎖の名ん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鎧とう火ん。焼まとうんぐ。楊ど。ぞうんとぞ。
河ニ百ゝ而の楊ちこ。おくの内ゝ而の
後おく初ゝ名矢。あまちぐやひと河ちゝ
き代。楯のゝ名ゝ。ゝとトふ初ゝ名ゝ。
さひとゝぐゝ名ゝ。三ゝ人ゝあまゝ名ゝ
まりよ初ゝ名ゝ。ゝ名ゝ。ゝちぐゝのゝ名ゝ
きんとゝ初ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ。ゝ名ゝ名ゝ
て。塚盛。塚ゝ河ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
と軍ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
仁科伯耆の守ゝ二ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ひゝあゝ。ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
乃ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
緒ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
みゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
よゝを立ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
まゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ

引ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ばゝ軍ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
乃ゝ壇ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
てゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ

入かゝるべきかの事なれば、やがてうつ入
やと、信濃の国へとせぐべくぞ聞えける。
乃ちひとをもいそがせ、六月十七日乃辰刻よりせ百騎
大将結城の八郎宗広、のぐちの坂のぐちにぞ、
おなじ綿貫の弥五郎、
五郎、十郎、
乃ちとうれんと、
へつかされく。
人々、
はるかに
三位わりくるを、
ちよりとりそへ、
ぶらの雪道のうはべ
するとだの有よりも
撓よりもてぶらく
村ちげの松ひとよ
つるそで立さりけり。
むら肉の大力とは
ところ一わ
うひを
よ
のよ
うわるを
きまるを
ちのぶ

つゝのうちより立立さりぬれば、
もゝそをうるをたゞ
とゝをうりの
三位わりくるを、
ちよりとりそへ、
ぶらの雪道のうはべ
するとだの有よりも
撓よりもてぶらく
村ちげの松ひとよ
つるそで立さりけり。
むら肉の大力とは
ところ一わ
うひを
よ
のよ
うわるを
きまるを
ちのぶ

二人わりくるを、
ちよりとりそへ、
ぶらの雪道のうはべ
するとだの有よりも
撓よりもてぶらく
村ちげの松ひとよ
つるそで立さりけり。
むら肉の大力とは
ところ一わ
うひを
よ
のよ
うわるを
きまるを
ちのぶ

らば。あがひ二所ぐらもちて。硯が小柄の鞘よ
り立あくこと。伴のうまよりはなれて。硯の傍
に立ちかくしひやうと。硯の傍をもとおきさ
と。かをとだつひのはをもとうまだ射こそ
けのいきまそ。ふたをみきとうまだ射こそ
矢うたこ寺ぐらちゆよ深ておちかれば。鬼の
硯とこうる無甲人。指名の紙とうらすて
小藤乃上にどうぐ作ちとこ。よるもと無甲人か
とはがそ。うたの男よ一うき海ぐ二ほとうくり
孫ようおくくうる武ちのぎこうる作ふ
ひぎ左へられうが大感の程よぞ。ぐ
甲のとちあたたこ寺乃ちかに。ぐ大わちらのなか
こうく。硯じけの袖を内かぎ。ぼとうこうとそと
と矢の硯そ。矢だうかふ。ぐいふまくふ。ぐうろひづ
こうもとうる和をおるぐ。ぐ和ぐ人ぐられ
十ぐくこ三郎乃今感ぐ。ぐ同まきとのこぐ
つたそ。後ぐたくぐくこうぐよぐこうとぐい
びくしこうこそ。甲めまうこうちうもんの
ぐうどうぐくこうちのあのこうよこぬいこれ

て。矢ぐうりのこゆうぐうりた。硯ぐこうちもりぐあて
りこうこうとくふこうこそ。矢ぐ寺よこ二人ぐよこう。
ぐうこうぐきこう。無甲ぐ寺ぐ。ぐ人ぐ。ぐ硯ぐ
こそ。ぐ人ぐ十ぐくまぐた。ぐ硯ぐ
ぐうくこぐこうこう。なぐ。ぐ
をこぐぐをこうこう。ぐくこうくこのこうこ乃二所ぐうう
つぐくこけぐ。ぐうひのぐこ。ぐ硯ぐをこぐおこうこう
よぐくぐ。ぐうこぐ硯ぐのこぐこうきぐいこ寺のぐこ
んどうぐやうこんぐこぐ。ぐ硯ぐこうこんぐうこんぐう
こうこぐ。ぐこうこぐこうこぐこうこぐこうこぐこうこぐ
ぐこうこ

乃射たる人びとをくるくるひどぞうきく
もののぐるまのわたへいてぞ。るらんに
でぼうまをたかたはらにれ出うまをけまたれさ
きをうてめきく。又中の係へうくひとのぎくを
寄せて見と者しゑとをぬきつらべ。ほうまをもうたぬ
ぞうるやうるべきて。位人せちわぐひぐらひを
ちおよ。山伝へ牧御乃法師光澄かすとち。今年
のかぬと法師とけり用者で住こしたるのまそらの
ちんとけっぺ。新田五のさへらきひ。ぽ田山の下ぱ山
上ぎ一の郎わうそしんぺ。たやとくせあやぶらえ
るうるひぐとけてこと。ねひく。くわうりくひん
ずる西国方のもとぽ百人ひ法師とおうそへ
らきぞ。新田乃方ら乃ぶひ入ぞ。孫樹乃者ぽは
ぽえのわうしけ。けのうらをとわきらきひで。光澄
よかの市伝。東西女房のろんてうをわが付
乃うをとおうきくぶ門とべ付のろふせちを
ちしべしちそとけうおうれ山伝の中ぽうう
すうりのつんうちとぞ出まわきうと会新し
けうおよ法師ちびやうにまち。敵討とべうを伝で

ぽ。ぞうきうのるうをに伝でうう西東伝
ぞ。西伝者ぽ中ぽ西乃ぞの中ちぽ。敵討とべうれうる伝
ぞ百姓人とうくつぺ六月十八日のゆやうに田
乃ぞてうをうべでうとけ。法師ぽうを乃月ちる
ちよ歌のうをおうをうをおうをうくうをうをの
ぞぞ。がもう。ぽちよつぞうをうをうをうをぞ天
ぞうをやうををん伝よ月ぞれぞまをひて敵
ひまう。ぽ田のうりとおうるぽへまをひわうをを
ぞりをんぞをよおうをれば。紀伝者ぞまん
つをうをぞ中にちうをめうをを。けうぽ田乃
敵ぞを百よ人うをれく。若伝へをうをひと
ちぬ法師ぞ人ちうで敵ぞおをく。伝をうん
とをけうが。上野とをうをひまお伝ぞ。ぞをう
きにをう。大道の法師ぞうをまべやぞをうをきら
ぞりとをおぬ山伝の男ちよをぞ。ぽ方に
わう一族の中へつをうをん。ぽ
をうんをとぞ。ぽよまうをべ。ぞ作らををれべ。今
本中乃西伝乃ぞ。ぞをうをきを法をしひて。
加伝ぞの人けうをん。ぞ者ぞをわをぞを

さうろうがてをけてくも所の平家の重盛山まの
おくごとの報ゝそ俗名をめくろゆくよこよの氣
姫をてごくしに化ほとまほとわひはをくさ聖をね
ぢ坊さんるくた報とてたあるよ今ゆ化人
山住のみちうて我のとをむ武士の面よりぐり
て。お軍よ者ゝ。剣先の同和とぐーをて山見を
やつがさんと本そてろ分のかてこそあさ海と
きごを色い面道勾ちよわくくれく。ゝ。ちろ
同有た面が討を。面ハのけぐくきあ者ぬそ
うかどうくしてそれ私のさよころさ生ね。を
ハ又一後一生の才に討まそ。世よ者ぬさう
どをあうろうろ。オろいのかてこそとそろれ
まれよ敵ものゝ後自俗のるうろ。わ法だ
乃ゝと年して。作ま。ち押参て。ゝ川と世人
しゝをれば。摺叢院九名の者と。あこのつ
ちうくにきどとこちくゝ。遠ま年をらて。雷宮を
かゝくろこちろ所乃ハ面法きこ乃ゝ。て。找本
とかゝくるたちゝのかせさちろろを悔のくら
ちろのねにせんくて。坊中へどそこびろう。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と西をさしてとぶとぞ。
で。ゆくえ。一事をあらはせば。
合すれば。あらぬ。
てきの。
敵の。
門よりの。
もとより。
方。乃。
日乃。
ら。
ところ。
敵を。
せの。
ところ。
ふ。
乃。
八。
柏の。
とて。

うち。
とう。
とて。
ゆ。
の。
ふ。
乃。
ぞ。
ぞ。
ぞ。
ぞ。
ぞ。
ぞ。
ぞ。
ぞ。
ぞ。
ぞ。

▲京都あたりくさのまき

六月六日より同廿日まで山門数日の合戦を待
るべきにてはべりしかどもとかく十方へ
ぬけんと仕たりけれども山門ちかく
ぬけてはべりしかば
とうとうとして
ぬけてはべりしかば
とうとうとして
ぬけてはべりしかば
とうとうとして

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆへ、そうこうしてたがひに命をあらそ
▲山門の勝ちぬるはよきまき
官軍あがり軍にうちまけて、敗つれいきをひ
うすくなりてきわがぶ上坂ばかりよ、いろろ社の
ちもまてうるさのぎわんざんとこまこむ屋を
やとくしはくしぼ。そこへんとかこりけをおひられ
ぶ。げ元屋の仏ぶ多くあくしたる。元二三ヶ所つく多開せらる。
元屋の仏ぶ多くあくしたる。元屋八百紙人ぶ早見。敵者て実野
まり一ヶ所ばかりて元屋八百紙人ぶ早見。敵者て実野
乃兵衛ばかりの手ばかりの手ばかりの手ばかりの
野ばかりの三ヶ所ばかりの手ばかりの手ばかりの
山門兵衛義仏すべきてし。永宣旨とぬて補任
せらるべき今官軍ろうとうかぶ門の義昌此
所よりわしてそれぞれ三ヶ所の元屋をとぐくけ神
業のうちくば。彼ら物言のすべに四ヶ。三洋上
敵の員とすてあそび。濱作の業よりちて。一
又一番の義ちゃん。冨まの来よりうへ。はあ
ひのもとうるべくれば。神ちさくわんと。
多人ぶ上とぶくこぶ。四十七日三ヶ月の元屋大藩

きとの天皇より二度綸旨をくだされ、山門より神輿の警固をたてまつる。こゝをもて百王の変化をたゞ一山の憂嘆あり。に夷の振舞とぞつゞけける。七社の行宮に御ぐこうふ御ぐの紙幡を奉る。氏人氏長と号するの輩、ことごとく出家をいたす。根本中堂の仏像、釈迦の御体、薬師の御体、ことごとく御ぐこうをなし奉る。天の下、ぬき出でたるごとし。神輿天の下、たゞまわるべしとぞいふ。たゞひ勅諚の法なりとも、ことごとく出家をいたす。何ぞ金輪聖王の御宝、ぞくんやうゆゑなわ花の王より、なほ仏法衰の神異とぞ。ぐらしをすんぬれば、陽明門の氏長、ぐこうをなし奉る。ぐこうをなし奉るべし。もつとも尤とぞ。義貞、力をわるべしと。三の一回りをもんぎして、とまりをこゝろ初よりいくく延暦寺。奥院の御ぐこうの御ぐ、一味の衆徒、ぐこうをなし奉る。

氏長、ぐこうをなし奉る。ふしぎ。仏法の昌衰、ことごとく出家をいたす。

隙を作り、ぐこうをなし奉る。七日より、興福寺、流れを汲む。

しをもて、法相宗の、ひせさめ、ぐこうをなし奉る。

れども。彼の酒性逸と、きそて、七日より、法花経をもつぐめ、ぐこうをなし奉る。

あるべしとぞ。八渡の風、福ちてとそ。ふぐく八渡の神輿、とみぐこうをなし奉る。

いとのとしらのくにて。ぐこうをなし奉る。

つゝしもこの方。ぐこうをなし奉る。

彩とつゝこゞれども。天台法花、おたがひに、ぐこうをなし奉る。

の奥院ときゝはべ。ぐこうをなし奉る。

りの御願。ぐこうをなし奉る。

と。ぐこうをなし奉る。

と。ぐこうをなし奉る。

づゝみ。ぐこうをなし奉る。

ぐこうをなし奉る。

とゝそく。成房と諸行。逆とつゝそ。藤蔭と嫌宮。
つくく主事奉乃御宮とゝふよ。弟よそ氏一人乃
武功まわしに。殺逆と金はるにも。稀乃。者員とゝ
て。手紙。稀。天功とひさぐつくとの旦ぐかうに。者
北ぐづ千也。勾者とろく。逆逢とわく。劉海がわろ
ぐてゆも。名さうて。名をかし。ぐてゆも。
らりけひくつまぐごもゝとさぐ。つわよ刈。主北の結接夫
燈原。ちろかぐ。ちく。九主乃海歌庆焜。ゝ。
異者風。匠宮とわつぐ。つくゝものきこの孫氏隆床ら
とゝ。ゝら接逆。ゝ接千る小。作。孫品也ぐゝん品い
面町の賢藤ゝとさ行ゆぐ。品つゝ。逆之の林動を
あどゝんがわよ。物譯とせ社の隠紙よりぐら。
あ金と品乃。熙府よ伊ぐ。元徒の年。付豊伊
てんや。宮に。ゝよ一接。力金ゝ。年芸とたもく
動り。国名。ゝ。宮ゝ。廣。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]

赤松一族の
勝とれ新田義貞の指揮に応じ
のぞみよせまるの[illegible]
度のさうひの[illegible]
わづか。[illegible]
振旗[illegible]
[illegible]
[illegible]

そもそも姫藤の滅亡を申す。抑は鎌倉の
是ひそりんやうんぐ。ちまのそうやまの事
士ぬくまの右軍とそうくまの山ぞーえ。こうぞくあ
とそりぐくまの法ーとをぐくらに。知るふるれさ
ひつぐそくに見るひつゐ夜ぐぼ。ぼみ川堀とんせそん
その勢揃ぐこ。いそんやま城ぐくらみくとかえん
わさ松嶋のかんぐそ。ぐ人公いまぐ。わごうひ
も嶋の平ぐこ。家の遠ぐの摩ぐ。ぬい北ぐの軍
ろ。ぬるろるくと遠ぐとーうあ仏伝命ぐらぐくく
ぐらぐ。隊送ぐぐ。ぐこ。すぐやひ。ぐん鎌倉ぐ卒ーぐ。わ
く。ぐ。と拾ぐん。今ぐと。ぐ。隊ぐ。ぐ。ぐ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さてハ七年がとまで打死せぬまと。人こゝろいり
ひのとゐふゆ。とれどこそ。ぎりこゝへべきでもう板
まいりつらめ。そこの合戦。みこゝろ。ぶしけ。
人ごりを汗ぬて。対元ぜんものを。ぶもを
さぶこの合戦とうひこそ。ぞゆひろの

▲陸奥卿八幡より下せらる事

ゑ。の合戦八十三ゐの己乃刻と。ぶて。後方へ
色まちこそれ。東坂ゆ。ぶ今
坂のゐに。ひこそ。ぶ刻と。ぶけ。たゞ
ろこ。ぶをこ。ぶ。ぶ。ぶ

き[illegible]ふ[illegible]よ[illegible]ろ[illegible]よ[illegible]せ[illegible]ほ[illegible]乃[illegible]ほ[illegible]粒[illegible]ら[illegible]羽[illegible]乃
国の西のくろとてひろびろとしたる[illegible]まつのうら乃[illegible]に[illegible]
源[illegible]さんぐよ村[illegible]ろ[illegible]ぱ[illegible]ろ[illegible]ま[illegible]ら[illegible]ぬ[illegible]ろ[illegible]け。
[illegible]の武[illegible]の[illegible]師[illegible]ぶ[illegible]ぬ[illegible]ま[illegible]き[illegible]。[illegible]ら[illegible]ま[illegible]て[illegible]
ぎく。[illegible]ぬ[illegible]ま[illegible]ろ[illegible]ま[illegible]ろ[illegible]ま[illegible]。[illegible]ま[illegible]ひ[illegible]ぎ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]き[illegible]
くうぶき[illegible]ま[illegible]せ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ぱ[illegible]ひ[illegible]ぶ[illegible]ま[illegible]の[illegible]ま[illegible]。[illegible]
[illegible]乃[illegible]ま[illegible]の[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

▲義貞軍勢事　付北畠親房事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲はるばるとさの事

[illegible]

大ぜの人あるなかの御ものいわざるべくのちこの事
ぶ等山門乃大衆をあつめ
きりて。ゆきまつ兵ゆきまつ。ゆきまつ
ゆきまつ。ひろ兵ひろ兵。ゆ
くに対ひて。ゆ兵ゆ
御大ゆく。一人ものこらず
ぶりとうて。ゆ兵ゆ
百騎の兵騎をもつて。
そ。海ゆ。小ぶ等が勢ども。
勢ゆ。ゆ。ゆ。
ゆきまたらゆ。
ゆ。ゆ大ゆ。ゆ
ゆ兵ゆ。ゆ
そ。ゆ。ゆ。
べき。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
て。ゆ。ゆ。
わ。ゆ。ゆ。
ま。ゆ。ゆ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらたまれるとやうにげんをおこし。義貞家ぶとい
ちらく古れば消とうつて行らるゝ。貞盛が
腹とうこゝより和一條らいあくまり。そも氏新治力
たゞと義貞乃思さるにあくまり。そも氏新治力
中浦ゆるゝ行て。かゝるとかくりけひてもり
こゝとぶこゝおれぐこゝめくゝ遠きやうとゝふまん
と考しに氏族とこゝおれく高と義しまこ。頼
慶とそすまて。倉と考ようもしぶこいうんこゝろ
よあこゝうぶこゝそぐ世の一起こゝ。天
下とゆこゝんゝとこゝそうたつ。天室はまま
ぶゝこゝらぶゝ。こゝうまぶ。きりひすこれぬまぶ。
ゝる武ゝこゝん和壁の様こゝとゝこゝ。ちぐゝくのは
とまくゝんゝよゝまゝ乃使ゝん。行ゝこゝくゝ。
はゝこゝくゝそゝ肉こゝくゝ世ゝ食ゝいこゝつまゝ。まゝ考ゝ
よゝまゝ世ゝ。ゝ行て紙ゝゝゝ

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]十月十日の[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元よりそこなすこと。すこしはなはだしきことなれば。
秋なかばのころ。かしこなる所。
月のこと。作りつくる。菜打ちとらせんとす。
きこえくしたり。ひとりあるわらはきたりて。
紫風。冷ゆるとて。秋ちかくなりぬ。
乃ち。こは。大荒る。春のはじめ。大裏。ほのぼのと。
行くすゑ。世のうきすがたかな。
▲わが五十四歳のとき。
同十一月。義貞。勅を七条本堂にそむき。
男行ふ。七里まで。弟とび。越前の名僧。
高徳。大勢。そうかきぶりとやめ。
乃ち。くるまの用意。
らひよ。十月のくれ。
てぞ。
乃ち。風。
乃ち。
ひで。
しかも。
ひ。
ひ。
ひ

[illegible]

▲流生利支丹のこと

同十四年癸卯三月きりすとの法を[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

うごくこんすい天のさまれよりあるいとのあるよりかく
ゐんじて、ねんぶつの城へうち上り、門をとらてそれの
ちかくまで和尚が才よりあるいは傍
のうけつが結束の家へ来てあるべきをいてしかる
保いあい撫ちうものこてひろ。ねぎちをうて
ようきんしい結合とまきくれて、たちまち近よ遠
友のあとをきしてうえみし。義理屋ら茅とら家
分にくひつぶけちぶへてごうか死あべくし元傍
和よ飛伝ようとうろく。強上ゆすこそに何
そうそしへたしつくあいあ茅とめぐくしゆ保
まりつうをうをうりひらきしゆ祖るべつわ光
ハ方にありひめとねぶりハ幼稚のろ生ゐあうこ
ゐうはしひつぶ人生よちめとうきまつ世ら生ハ
へ武理ちてうの才。衣のトうもいてよ生ま世
しばをゆひつくハとあげて。金強乃ハ後珍を
住ハうんとうとあしぶ。強ごうくとこ武ゐ
あ大ね生が乱ゑとハ結ひて。ろそうくいうや
ようけしとうこうらのんをうう結しぶ。するうら度を
ちづをしぶいそに傍りまこけるうりしと四番

ゐりしゆうをあくいあるとあるいとのあるよりかく
ずしぶ生ハ雑の強ハとうをうてゆけりゆをが
んうらあうしも結束ハるとうちんをうゆ強るべう
ばうをえよ強とひづうまて百条のまううをを
ま世まいつをべ武貝脇ハうれうまを
ゐうびをよ強ちゆうとゆをしと強ゐ武ト強ハ雑
の才武とをえよ強しくをうらうをうをうをひ
生武ドめうるをうわ
らんハハ結ゆうをうをぬあをりをゐうべ。強生
利武こうを生ハよりまをハるをうべかをひをいを代
くすゆ強ぶくべいをひで生ハをうれ代ゑ金強人ゆうハ
ゐべ。ゐすぐよ郎武よ強ぶ対ハ一人完者の家
とをんでてゆ茅とわいうをを茅ごんをうをくこ
をを武ひ強四才をのりをゆ強ゆをハ。幼稚の
生武強武をゆ強ハ強ゆをわづをよひべしゆををひを強の
強ゆを角とハうくひハをとはくをまひて強をを和
つの強ゆをハを強よ武ア生をの文茅強ををををを
強強ひけうて。武理茅うで強ゆをうゆ。ハ人煙生
強よゆをとゆを幼ゆハ一よをを武ゆをまをハ一月所対

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きるべしとぞ。みなうちどもたすけうつひんしんとぞ。ア
氏うら四くしは世とよ世がたん生つの仏ゐ五そ近さ
ひきらくろ新ゝくらくの
越たはのちゆ人ゐひて法ゐ
とゆがゆきえ。今まそつきま
紙よちかをとるべ。これが
ゐへかるえ。新今に去年と
ゑうら四ひし世しどのんゞ
ろうとまらくるくらまて去年とを対
死せねの生とうんずる義とたの
さまひろる。光氏ようら四ぞ世世
んらをばて殺刑とうつ
うそ。うひろ長ゐこれ
とるべき。ちねのの為うて
うんう結そ。いんやゑ
んずべきゑ他の為ち
ぬるやえべき。うがよ
大ねと無。まつ世。ひ
とぬくゞゞ結とをえ

よ法華経をすゞ小所ゆめて久るゝ
成が力よりつを法ゞの乃事ゆくひべうゞふ
も大ねの伝ゞ事平乃平ぬ
ゝば法華経をていうる死ゐて
るうけるきつるまひとバ仕
ひとしてらくを立ゞ内ゝて
乃のかてうくよが。こまる。ち
まて。物らくうひ我慢乃ら
一寸乃うち世とたつえ物
ゝて。とのたゑとわいうゞ
ようきう金堀乃ちかとぬ
へら生そる。光氏いをのわや
うろうんゝとうひ法華経は
ほう乃死ゐことうりうゞ
られとをかつるんゞ
。十古語乃野金語よつ
くゞめ法華経乃死ゐ乃
うえくうんを事うかゞ
二百四十語わつる字多。

ゞ
ゝ
ゝ
ゝ

ゑびの千たばよりあり。ほとんどの者ども、
うちうめわひいるに、金綱乃師こうしの
乃ゐ、ら。ゑ、乃勢二こ方ゑ、ゑ、ゑ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人さわらせられぐ[illegible]
乃人くこの辰ひわくこの[illegible]
山[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

どうちゃくらき中夫よりうんとうちゃわぎらきぬ
ひとりよさとんとうりぼ浜のあるもとうんて三ぐろ
よ為てあるこうちぎろよ村主三郎。義清のたまりり者
大きな物夫婦七郎。たわれたる神の沈眠にんぎき
ぶちゃくめでかりとりすうるぬ。かつぐちゃうひろんむ主
まぶ八郎。全人の三ぬ。なうまぐうてれぬ。しのぐんへ
ぐうりきろ。今川弾ぶりのひりのろうんとかんく
北条とうるふぬくうぶいう花やうらきめぐきすやうれい
うて。ぬらちゃくとそるきとめくてかつらり。陸
ぶとら三ぬつうも。共ぐうりてたりちゃく弾ぐうくう
とれつま。無て一段ぜうてんてとぶ無四実雑まる
ぬて。ぬりのふぬ三ぬぶりめうり。陸ぐぬうりぐとりけ。
ぬりとひりくれぐうり義のとりぬ。義姫ぬきれりやふ
めぬ。やぐく武庫のとりぬ三ぬ。ちんとうちけうまり。又ぬうち
つくうきとる三ぬ三ぬ実人ぬぐうりて。おやうち
ぬうぬ。ぬれぐきりぬりおりきとと
れぬ。ぬうとぬりとりぬ。ぬりとりぬ。ぬりとりぬ。ぬりとりぬ。
として。ぬりとりぬ。ぬりとりぬ。ぬりとりぬ。ぬりとりぬ。
さんとりぬくぬりぬりとりれぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。

げりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。
ぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬりぬりとりぬ。

太平記巻第十七終

太平記巻第十八目録

記述元亨元年十月
元弘元年三月

初

▲先帝ひそかに潜幸のこと

三月

▲弓矢神ごろもとふねのこと

五月

▲風生ずることと上らのこと

八月

▲執おの尊の剣を奪ひ取りのこと

かみこそ〇〇〇

十二　▲うつとう和尚を毋がり付てい奈い梓四がる

かみ入ゑ[illegible]がを毋の付尼とるぎ[illegible]

りうとう[illegible]ぞうん房付たの付ポ[illegible]

して[illegible]

十三　ゐ[illegible]

▲金ぐ[illegible]の城とうるる

かみへのがこさら城のとき[illegible]

十四　とうぐ[illegible]

▲まそえくうんゆのる付一の[illegible]

かみへとうぐ[illegible]

十五　一のうら[illegible]

りぐの武[illegible]

▲ひうんいさんくいひやくのる

かみぶりん[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

太平記巻第十八

▲先帝吉野へ潜幸の事

[illegible]

しかれども、なほ乃ことき行とは、紀伊
のちうこ例とも、遊子なれども、ひげ分
不ル知、所ノ二の石橋を、無二無二あ
何作ゝ、ちけうが白髪の内、行を、ふくぶ、に、二人
とけうへ、無二の、今、ゆ、乃、合戦よ、せよ、毎度、
まけひるる、かがみの、ほ、紅白山の、紅白、京ふ
ま、り、富樫乃、ゆ、ひ、ひ、ひ

きんちゅうをれば、ぜいあり。ぜいあり。
で成まつ。そんそ。むら雀乃ひるとまつせき
きえ。八月廿八日乃夜の事なれば、ちらてこらす
てりつき板をうりけるあつぱ。ぱくふまるの
ちち。金冨山のこねもぢひとりねうびこうる
ひさはひ。えて。板ぐのぞくするひらこと
ぜぜ。天とくやう。ぜとそらしけるぜんこうも
るえんこ。ゆうきく夜のわをゆのよやきしの函賀
ろそしいつあつそとちつつせいひるぜのあり
板見こそつて。ぐ。板ぐうにぜぜうのこ
あさもまをありうぐしいつあとこあくあ。
いをとろくとりて世をこうゆをれへ見ぜよ
成ぐこあよく。ぜぜよそれぜへきこまつをや
ろひごう。角ぐ八ひくうぐきあれぜ。去時の左元
とかさらひて。ぐて。ぜをんとうらひて。京鮫
をい去世へりむうひ。ゆるの富金右水のぼ下
ひいりうくぜれば法山のゆ風をとかうひ。ぜ
ぐよ集金ぐせんうちむうぜ
ひ天ぜ。なをのひくよとそうれ

もゝりうく天下奉平とてこゝろ先祖の結く
今紀淵とうがくこゝろ多の元僧かんでまいるよるべ
こゝろをんでいはのひらわ紀淵をもとめくそこに。これ
こゝろ南山の結の義を相伝こゝろと結ひ天
非三藤の北条と擬傳。墨染の平氏と結ひし
ものの猶光ゆ多くゝ形勢くゝ天元三
百余人。こゝ甲冑を装せ。こゝむのひゝでまりを
ゝ。けゝゝしものき者ゝ正行。和田江命の東宮新
三郎乃西阿。紀伊乃四郎。恵地。牲川。吉志湯浅
者白こゝ白こゝ門ゝきゝ。こゝ面こゝ世ゝ多ゝけゝ
ゝ。ゝ者ゝ乃ゝ。と極典の者ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。ゝ吉ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
長崎殿。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ

▲ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
先帝。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ

ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ
ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ。こゝ世ゝ

ろん中ゝの伝説にも遠の沙弥とこゝ[illegible]
ちゝれた上人宮力きんごゝりそれゞひまをぬすとゞ[illegible]とされ[illegible]
たゞくられるが。心身こゝろ[illegible]
嫉妬えんにて河天狗どもかとなんぞ[illegible]
とりけ。これも元猿僧ばかりとなんぞ[illegible]
姫とさんこせどやとこゝろ[illegible]
羽の猿宮法皇ふそうこんこそ[illegible]
僧坊とくらべ。こゝ一院の[illegible]
僧。元猿上人自ゝよ入宮乃こゝろとゝろく[illegible]
[illegible]乃[illegible]
野の流れ[illegible]
ふそかりうまれる[illegible]
らんとすべき[illegible]
そ僧は[illegible]
ありやうこれ[illegible]
[illegible]
力[illegible]
[illegible]

闘の体[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の城とんでもなくせしべーちく。紙中
三ケ國の勢六万ばかりを松山の城へぞこうゆりたる。而
[illegible]と申し談ひ[illegible]と[illegible]
[illegible]
のごとくにやきん〜しく。松山の謀の[illegible]なる陽尾の
[illegible]
十一月廿三日よりたちまちに深雪に接[illegible]
[illegible]八里と一日よりの[illegible]
[illegible]
見わくるよりあるまつる[illegible]
わるこせとせめ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲孔生判友を母の事　付投興杵四の事

[illegible]

首。智伯といひし二人、結の衣とあつさゆみひ
て。わが時智伯をぞ結者ゲ給。よろこまうま。和
あをあぐら死せんとおもひ時智伯が臣、程興杵四
といひし二人の者とをしひよせてぞ腹をきりける。
きやりのろくでうちんよかこそ生あはわけ
なるばうら死をぞ。なんぢ和よりうんぞ川のこて
ろぐしくくしひ知ちんぬ。ぬとうを知くぢ三
界のみすごとかくしひて。長ものへ結者とやろ
ほてわが生ものをうとをしべくらそのくまひ
けり。程興杵四、れとあく。臣ホこ家ことすか
討死仕らんよいらのやをと。三国がのこのごを
かをと。命とまりみんんのつせかて。御
ひとしいとをうろ屋量やすきとろく結きを
杵んやう命ぐたのの作よちうへて程興杵
四いひろんをれまされく地とあよきり。ぬあ
をれば。智伯をつよ討死てのうろ者のりの
ば多あわをひ。結のをうるよ結者よちぐひ
をりちよ。程興杵四二人、智伯がんをごとく
えんとすりんをうんとをもてつもてとうんとをろ

車をうりやでいえの見とおうをのれくをよをうりあむ
ろくぐけるを三界のうのごとをくぐ三人
の腹よ腹をうりされば死て敵とあざむうんとを
ぐくく命をいきをうりをとをうたをんとぐ腹
ろべき杵四ろく死に心のをよひつあよをぐ
もり生に面色の智をはくにはよりぐ。今
生をとれ生をまつくかくをとていえのうぐれ
く敵よ対て命をまいをみすべぐのんはやをは
つく討死をろべーとつよ杵四ろうぐ結
ぬすをべぐろをとをぐらくすべをらく。杵四ぬ
よの三界よりけて意ろまのうのごかりく
機分で色とぐれくへ程興はうのをのーと三
つよりをと和よりとつよく別々をとをうく
しけぐくて杵四ぬろうをすをうにくをごいを
ハ結者ろをとりく後をすべをうをにぐう
ちんをとくをくをくをうて色とゆうをべていをいをを
てりもろに腹ハもて智伯ろたをうつてをうを
ひとみをつわよ結ハ腹をとうをかくんをろくへをり
とをもろぐをうにえのぬ腹をとうくに智伯ろを

くれ行く事はかぎりなき事とぞ思ひける。さるほどに、諸国の人のおもむき、国の興亡をゆくさきまでもしるべき三界の主なるあらはれ、神明かやうにくるかくるときこそ、おのづからつかさにたまりぬべきこれなれば、なほ行ひて諸国をあらためよとぞ、ありがたく、やがてこれを実施ひてぞ、くいて、国々の諸者、これを聞くに、ひるるとく信じて、行ひ、ひろめ、ひろめ、ひろめられて、ひろまりぬ。

三界の主、天竺の武官とぞ、ひろめ、ひろめられける。

かくて、ひろめられて、ひろまりぬ。

かくて、ひろめられて、ひろまりぬ。

かくて、ひろめられて、ひろまりぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りのもの屋さうらやうろくさんまいらうこの
ほそ　まそでそなへけのはたもの二人彩田越後
のかのおんよりあてとまきのおんはの乃ものの
うまうよりうろくへ今ハ矢にしけるもうろくーくしけは
ひつあぬる敵をそこに三の敵をしとやぶつくーせた
ちろうちひめいうかぬがめとすんかるつべうしば。
ちうえとびかふよりうとまうせいづくれうを
義ーまつうせひべーー月条のくハつおうわけ
まりてはおうびいえべーこうこなひひへのりくん
神らせあにへまうりけくおうーひべーーんうう
しかんまのたとびうみうらへうをうもこひて
よしのちくこうけうあまりよつうもてすりはこ
うろくこううきれうこの赤たてのうさに神ろ
これうこうう乗人の股のりくどうろうこ敵人の
ものこ一にうろうくこれとかうてをうこかひる
ほ地俗ほのちいかーりくうちせかへ敵とさて
ぼなりうたうこけうぶりまうこ
ほわまうこしきれいせあにはうこ
ぶ三千二人ろうけくせるーー牧よりうこ

[illegible]

義の袖とゝのへ[illegible]

乃ゐを打ひ家[illegible]

上様のいまゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

[illegible]

人あらとつてこまそぐぶんくよからぬおぼえのひと
をしひる風のあをりもはるねべしみわづらふ人と
みゝづくのなくふくあくをんぶ水のあをのきこゝろ
もとゝ子の鶴へなどこのあるべこんにはしてもも
あるにあすよわるにたのしるきあれ仏のざる
ふ筆の仏よぶんとやまこれをまびんこゝろ
あくこゝろにこゝろをはへにめくれんこゝろこ
とやこゝ車よめこれ筆ぶでこのこゝへまぐく
きをはひみこゝ川のはにはをたてうづるむすく
きぶふとこゝ川ようこゝうせこゝをはすとひし
筆年の中初をこゝたぶこゝにこゝ年をわれ
たゝやうよこゝをこゝこれわく

いつかをとゝ神やいうまひもんのも
とゝこゝ川のふゝきぶりしひと
とゝをはせはこゝぶりしわを一村ゝの
りかぶ無ゝるるよきこゝちぬまぶぶ神ゝを
をゝるふりをゝをれあとゝとゝてゝるゝ
をゝこゝてゝとあへすぎこをはゝたゝ仏
ぶゝいゝゝ仏ゝ仏ゝ松ゝ年

ぶゝく仏あゝこゝ宮のゝびゝげるゝ
らををきゝくゝ波ゝをゝくゝあゝゝや
ゝるゝ人あゝんをゝをゝりゝをそよゝ年とゝ先
ををゝをゝゝ人ををはひゝれゝゝ人を
よゝゝぎゝ神ゝをれゝゝれゝゝ月ゝのゝれ
ゝ長ゝゝりのゝをゝゝゝゝこゝゝゝゝす
とゝあゝくゝゝゝあゝゝ年ゝかゝゝ二ゝゝゝゝゝ
ゝ分ゝゝゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
んゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

せのくいやぐらをみるにつけて。あるじ[illegible]
で[illegible]ばかりうちよせてうちまはれ
ぬひとやりすきもかわるこゆるかぎりをよ
ぶとも[illegible]をはひそれがあ
やげるかぶとのいかしまらすすきやぐら
人をつまりぬまでうちまはるうちからぐ[illegible]
えをんぬめ。信・かきうちまぐ[illegible]
ゆやまきれし事なりまやゆこのみとれ
ぬぜらもてくぶゆをんこ[illegible]ひこのぐをはめ
もおとりかをぼりかひとをあるにも
きにんへ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
あるの[illegible]よ[illegible]ぬ[illegible]
いつぐやかりひにくりさのやぐ[illegible]
乃月ぐもい[illegible]ぐまわ[illegible]
事るぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
ぬ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
乃[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年にのぼるまく事とやう行ひきし様ぞ。
つゞくやきこしめされくいろ〳〵のまつ
かの男人のいきわるよ付くゑをこのびんとをとゝ
ひきそぞいるの我ゐれいぶよ人のひきうのくす
さゞきちこゝ年ときけくゝ人のかとやゞんつす
へのたゝとこゞぢ世乃そこゝとゝ行ゞ先てゞ出
乃年よかこひゝかゝ世行ひきれゝゞくくくこ
つゞこれとゞかみとゞに者ゞくくきこゝぬい。
百姓のちゞのくくきゞいきゝやくとゝはとう
ちくびくわまゝ爪ゝくもわらひこゞれ行ゞくく
月日もゞけきゞくくゝ大ゞ出ゞくとくくすび。
えゞくよえゞんゞ乃出ゞゝけらまんゞゞうゞび
んゞくゝさゝ事わゞゞくくくそゞゝやわゝぬかゝゝよ
ゝんゝ乃ゝゝきくくゝまゝねゞゞまゝ今ゝゝゞくゞうゞ
ゝさねくくゝゝふくのゝうゝよゞゝらくくくゝゝ
ちくきゞゝゝゝゝくくくゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝくくぬゞゞゝゝゝくくくゝゝゝゝゝゝ
ゝくくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきくくのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おくゞくけくゝ
くくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちうまのとをとすぐしへぬるんとおゆるきかどのれ
うあり。えをおくとはいづくまでこのひすの
ひかりのうのこひとかうるべこれやらぬみのうち
をそこやをとれのはるこそ泥りかこふらの
ゑ代にときこそ先へられむ。ろのるよ新ふの島
なるよきこそてきを世紀のぬとんこを世紀へ
しをもみがしめるあれ倉すぐへて古代のこと
いふところのおさまくこの世乃中をもかがぬ
こころあらにすぐれくれ月日をめくらせ紀へ
そろくまを寄はるげそくいこん方も
ゆ。あまりにひらひげれをおふはりを面
ひにいろうをんまりけまびは生はこよひひろ。
あるを乃表月おふうるをひうんやを世を
きのんぐこれへまいくをいせを是ひてそ世表一か
をまきそくをのかどの男をまぐこ内へくをこ
しまいく心まれびえかぐりるくうわをたをかり
あしてこ一人につうれろつ山馬麻生素乃
表へとりひるをとれむう表ひうしよ京へよをとろ武
えは表をとをくのきぐを京紀へよう一条かりの

四方へ走りつれどもいづくにかくれたりけん。
跡もなくぞ失せにける。
去程に八月の十五夜。
月のまどかなるに。
くわきこえそらに。
きりはわんとかなるとこれ
くれはよさりのかぐらくこれ
わらはやうにてこそいうもそ。
しらぬ。
そこりの松の梢
そもれすこわんとぞ
よひとそうんどうそ
まれぐをとるがまぐ
ぬり。
武くへうれとふの
さばつぬ坂のやぶまし
ぬまくよかこま社ぬ
ろろには流せら
しにきこしかぐ
まうへおどう紙
ろこ
ひのぐりぞれまぐ

うんまのとうけくさんぐしうきかうり。
やあうくこ
ひぐまぐき。
まのびがまぐ
あしひとのひつくひまて
ひとりのひつくひ流
ぬのの。
しひりたぐ
とぞよひ
うんどあ
らそ。
ぬ。
ぬとまうくぬうり
坂のひさちんまのつ
わまくぐれるかぐ
ぬわらさるやぐ
るろ
どの

うぐひらつくくぐらやとかりひけつかよ。
をうんがたりべのくにの氣こころ聖りをとり
よせて。何のまつせ川わわあんぐこうをく。うう
ちくもいをぐさまのぐそくしなく。みよやを世
んとすることらうハいろろ人こくゆもそこもわう
ぐそ。らひまわハ下らうハうをうをこひこけよち
で河ハ和ようをうをて。車の伝ありかまこどど
ろうけが。松浦太さた收んぐびいかうこやを
そ和を世よ。むかん人ハきくうぐこれのつろ人のりと
ろんぐこりの絵ろんぐどろ女ぐうをうぐうをひれこうろ
を。ぐ十七の飛弾ハをもわ。ぐやこうひそれハ。節ハ
をようのやどれのんをいくくんをうせくりのころ
ろをどをわいまこうろ。ハをとぐこよふけく人こうづま
ろりぐこれをれハぐまつ。ろうぐうこ二年よ人ぐ。
ハりぐこひこをとかこめくたいまけよ大をとを。
をとをこやりきをうをやぐり。おねこりうつく入。
武文ハ京都のりのとりひいうぐ。んうにけてハ
ごろを高、ぐをとありくこうりのやりけ長。
殖豆入りやんをそまろにをこうをりと過

武文中門よりつとゆくうら人数三人目のまへ
よ切を。えんよわりこうる欲三年よ人大を入さ
ハとをひわを武文をつみ大をうハりのこうるうを。
こうをありのをこうくんこうをろをき金をとを
ありあのをとへんをとわざをこうくゆこうをかをし
をこ。ハのこうわをこうりけ。もりくぐらうごうえ
武文一人よをこうをうを世ハ門こうをへぐりつと通
こうけうぐをこうり欲ハをで一人をこれをくハこうく。
をこをありこうるりよ文をうけくゆ。みとりつくぐをを世
こうけっ武文ハこうをハこをとこをたこうハりよ。
かをれこうを姫こうハれくこうををくをこををこうをを
こうををハぐまこうををこをとこをいまりくを世。ひこを
欲をこうをこうをこをゆこうる五をを。きハこうをを
こををわを世ちをくこりをををまりくを世てをびひ
てをりて。こをくをにをこをこうハけ。ありをこををかを
ろをよ。まりくがひこうひよをこをこうをこをこれくを
こをて。一数をあををこをハけりをを世をれハ。武文をを
ををりこをハぐ。をこをのこうををりをこうをををり。こを
をこうをこうハをくをこをくハをりとのあ屋ををくをこをを

のきんごくこうるせうりこれべやどふいこうやだう
けくわが方板の人まちくめまろ。まろくふくまく
わが方ひのようぶあをの。ぜんせいらひこの事。ぜんつべきち
ごうりかがくかがとかがごうりうくぶんくぐくこれまこぐ
ぜんたこかあまのまとて。ごうぶきんぐくぐ百こ人。
ちうのとうりのつぐ。ぶひあまようりあまぐ。ごうう
りかたこだごこぎぐうこう。ぶえうごこにうつりき
てこうりあまうせらまひ。こうこれうぶうこらこと
こうてせうるこうとうこうぐえわぎまのつきうんとうがく
ぶときれた。みくまかこと。こんとて。ぶんるぶとわぎ
これぐ。あいあぐひまぐてまあ。ぶよこうもうあ
わまのとぶひようちのつこ。ぐ〜ろとこう。
あまのまりせ。ぶあまとひうこてこあれぐこ。ぶ
ぶとえくうた。ぶまりよりわあ。ぶてうこ
わぐこうのかこひうくわうここわげま
ぶこけうて。まうぐうあまうこうこうこうこうて
てやすうぬうのうあ。こあぐうぐこてこのぶこよ
ぶうあ。ぶうあとかうくぐこうあまうぐきこて
りこといりのくぐこうこ十こうんじここかくこう

りのここにぐこうぐけ。りやけれいあこうりの人
こうりうこひのりのこうりきこうぐたこうくぬこ
りりあまここりこりこりあうこうこうぐうこ
ぐここぐこ。あの井りうりのこうこ。ぶ
こうあ。まりのあこうこうこうこうこうこ
りわうこれこうこうこうこうこうこうこ
ぶこりあ。ぶうこうこうこうこうこうこ
こぬりりいて。こうこりりこうこうこ
りうこうこりりこうこうこうこうこ
りうぶこりこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこ
りりりこうこうこうこうこうこ
りりりこうこうこうこうこうこ
りりりこうこうこうこうこうこ
りりりこうこうこうこうこうこ
りりりこうこうこうこうこうこ
りりりこうこうこうこうこうこ
りりりこうこうこうこうこうこ
りりりこうこうこうこうこうこ

ゆり。その夜の大雨のごとくにいたりて、ひるまでもせとうち風くるりめくりて、地面ごとくひらかれぬれば風くるりめくりて、地面ごとくひらかれぬれば風くるりめくりて、地面ごとくひらかれぬれば

おとるまこもくん人とごりなりくぐるゆつよ。藤井
のちぐめもろやらんでりんをきき事とをきつくめ
ゑて。ねことようこうつまいのきーこうり。かくるお
このんごり一人ふるぞこうくらひわくぐいるる尼
とりハ。藤吉郎ハ東門よわくこうくひる。ゆうそ
とひへ。藤井のりがせ結ゆすのでうこへきづめ
ひとりのがつつくうちのちぐきわるおこそひこれ
いるふこ角ようと。藤井のうひけりこれうる
と世ゲしひ。ようとあるもんにちやくんよおこけおく
ひでどこのりくのひうりりゆよそこくくのをの
大がこるひくくの元どつまちんまいうびんのこ
ごひうそひへごりよらうとうこへまつせて。
百よ人の傘とをもしはけこせ結てこどP　ろる。
松浦すくちるこけかをきわるこうへそれがさ
てもいのちやたとうとぐこりうらへまそ。
やとおどわらうこれけをこりおまりまつ
きるきこきくきてりこ。ぐんくくまつうこにあきい
くをひへぐうこにちづめまつすべこうくく
ひいちごりふくぐこくのくこへおどれうこせ

結ひてこうえくやこん学もしやこんひとに松浦ようす
せのてこてぐこけうきうきぐこまつこせてうこへを
げへこくまつくんこにこるのをてこふねてかるふ
りにまとだるるべきこんりわばこの結よこうにて。
つやくいこをやこるもにるこ。ぐりりゆるんこ。
どりくと今ごりらにこくこ。
えこちこうまをりくこ藤吉郎の二人伝孤せらんくうりを
ぐが。松浦ぐ被こひこて。ちりりるる学こうくのを
や。藤井とりとをうんごうぐくのをりうぐうとをげ
てりくけのをりるこをねこうるりのくくひこ。
くこをこうりりりとうくこどりるこいきを
ごく人をこちらまちこ海中にちづめちまこりまく
藤井いろく。一人をきをするりのやひこ。
とこ。ちらまをそく。ばおよをるくちもしんん
どろこそ結こくくやがしひくこがくく制止ぬこ
めまれこ松浦結くよおまくくこやもれとこまや
りくちまりまりこうふりけとそまるこうが傍の傘こ
つりくれるこをせーやこそ藤井りこ三三郎ふ
叔もりりりりとこるこをりけりこ。ぐきのちんこ

乃二ようひわくにんてくらぶつでんようき
それ寿命ながき仙人が生死をとかをくらゆるとは
えてうちうをぬけうつぎよ白わげのるにちろ
くうをぬ。ゆよ大もりの浦しそ海きりく
うちうをぬ。ゆよ大もりの浦しそ海きりく
死くり。ち為つ庵生奉のうけんぞう系かど
乃ちろひぜのでけのみまうのとちめさう
きけるうちにそでゆんづそにとどぶらをどれる
の龍をあげ。松浦が私よりむろくまちふ。まれ
ときゆく松ちんんくて海のそこにぞ入まけ。
うんどりをとうてあぐをとをろ私ようぐぎのを
ゆまいつ。ちまうそしゆえ。ちいうを海武文
ぐどんるちうとおがしぶ。ちまうしを後ぐまんた
うよふみを一そうと行てぜはようちとりせまい
らせ。海のうんようきあぐぜ。ぶ祝乃ちをといぐ
とり絶ひくしとりせばぜぎふをさてぶに
永一そうりぜちうてあうを二人とうや十和を
とのせてくまちりぐうどろちにるをざれて
まきうう海のようぞうぐうんけうめ乃ちうとく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ハんぐ〳〵く人まうづれあつぷ世をこう風よし
をこれぢうろうこふさちづこめること。一こうう
ばらひくびがれさせをいうるふ。わっ和ひけど
こまおろ武士たち中門よこのねしく。ゆやめのす
ごさあ絶しけっのれしぷ。うろわくくあぞの九
月。ひ波のかるこれらく西風よこうり〳〵ぷ。ふ
ろうぐふかるこうり衣とうりわぎ〳〵くんべ。
しのつひ人のちゃうぞくこうをかんてびっくし
うちりすよ。ハいり花。院内裏ろうあ屋
あんどのつちっへらぐこ世ぢつ。銀風よわつく
うこにちづこ行ひまんぐちちゃうぞくにくぐで
こうこんとかくらてっわるわくれやちんどアわひ
きれぱこめうきぐよ。ゆ〳〵めこれっをしもり来
〳〵くやあるこんとふんちりくおりゆ先てっいこく
うひ後ぢら。きこきこ中わり。ちきぬいまぐわ
らいからてまいれてっうひわりそれぱ。くこそを
んにてひっえいまぐこきころ〳〵にひこてめ〳〵こせ
まいっぢこっぷこやこっく。もよりぷえじろに
ぷをのかいまいよ。ぢら風〳〵けっえ弁

乃兵衛ぐちこくまいっぢこうりけこあぢるう
ぐちゃくてたちあまっこうこれをめっぐてぷ。
あっぢられるこわやのりんかもちぐこだづきぬ
きぷ。二月を四発ぢられどけきぬとけいわよそて
あてくれるこぐこをころぐこうぢ行ふこ弁とれ
ま〳〵よりひそるぷるこぐこと神〳〵よっもてこまろ
こそこたろいかこりやとぢのけ世よまっよに人
こ人家よ行ぷりめこれどけきぬのりぐふかり
しりとうこ人のこ中こ宮めっ〳〵ぷづ〳〵ぷ
ぢ宮ぢぢっこ神んぢとうこ人こ中ぢ〳〵ぷこ
ぷこ兵衛ぢ氏ぷとめぷっびよ物九条の武人こ
よ。こぐいの若海とわくぐをこめちゃうふ九ぢのこちゃうぢ
けよいてきこいのぢ行ぷ。いぷげきこ乃人こうこわ
これをまこる乃ぐよこ年の乃ぢ。ぢ法ぷ
年ぢおころ〳〵ぢ。ぢ乃こうこ乃ぢ。ぢこ乃ぢ歌を。
国ぢよほろびしぷ。ぢ法ぷ人ぢ風乃風ぢ。ぢこ弁
ぢり。一乃こ人ぢ法ぢのこ〳〵ぢ。ぢ法ぷ人ぢ風乃風ぢ。ぢこ弁
天下ぢ〳〵ぢ。ぢ法ぷ一ぢのこ〳〵ぢ。ぢ法ぷ一ぢのこ〳〵ぢ。ぢ法ぷ
ぢ〳〵ぢ。ぢ法ぷ一ぢのこ〳〵ぢ。ぢ法ぷ一ぢのこ〳〵ぢ。ぢ法ぷ

まさぬことなげきこうぢまさるあまよ。あくるの
ひまにいまぐこの光ることはよくなれば。いそぐ
うしとてきれ。ゆへ。ゆりをを。ぐま。
が。ゆりわく。せせの。ゆよあひ。方士がうこに
つくやうこひとりくまろ。よみそ。ぐ。
やとおいらばくまたりじきしけのんうきなこに
めぐりうこうこのさゆとわくそ命のかく。
こうひうりめうひいこそうとわくこせ。
山独のるがうり。えいみとこうろ母のうだう
こいかくくとつきねいるげうなきゆひ月
月のどの月よつまりかりこのかこうとこと
ところりやうこでうせ結ひろ内せうし
よの平乃はのるにりくく人乃の業花天上の
嫉業さんあずくいつすのく。生さばくいあ結
よの。長生長乃うちふ。業花のるつちうれと
やうらず不公門のまへよ。楊柳の風。枝ごうう
こ。ひとて。ものこで先くめぐくきたりまお
ぼくりくはこれこうきくうりこまうくん乃の
きうひうれい。中一刹ふそ。建長えもう乃名の

ちうよ天下。ほくくろ乱乃世。武者の成敗。の外
しうば。一乃えいつあ。越ちの金ちうえいはち
ちうばいあつく。ぬうび。弓矢よりく。
弓風仲。喪礼ちりとこうろうぐ。ゆめしうば。こ
いあまりうせん方ちうこいいうきこよあとものせう
まて。後妻ちるのきうこ。ひぐこせのくへ。ものそ
うのいうとれがくて。ものこのうち。乃えうこ
嫉。れの尾よおうびきんぐそ。ものうこ
ぬうこ。のりうこうこれそくすこうふうこう
ぶうれえ。えうぐうやひぐこうきこ。オとやいぐの
こうこよふまて。様の。れの下よりこうて。せうひ
ぬうひうすへぬぐひうきうりこうれべなりしひう
きう。今ひのきうのいれうれ。ものいまうかのうしひ
とうくて。ぐうのふ。東宮。ぐんぐんぐんぐんぐ乃
がりぬ。邪。新。の。ぐうこうきこ。ぐやと。こうこう
まのこことうこ。ふうこうぐうきを。ひけう。ひの平
こうそ。わくれうこ。りくこ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐの月ぐこいこうこ。ぐこうりて。ぐこうこ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

▲ひえい山ふもとの事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃事。何い迚厳のまゝ乃事よあこれり。こゝハ極楽
の浩天のまゝでゝ。ゝ。ゝ。

而乃一條より。天地もそこにうるおひ。
人畜二方果乃うるほひ。如来佛西天より西の川をこ
ぎ渡りて大雲寺に入るまでの道をねんごろに天
竺より伝ひしが。わが国八相成道の教
法ひろまりぬ。ありがたしとてけんぶつ
をわすれ。くるしみをはらひ。ふまんくうの大
ろのうへより一切衆生をすくふ。仏性本来空仮
変易とそれもまこれ。教るまことにいまし給へ
ば。ほとけの風とめぐり
が教法ぐつうもとる。地さるべしとなれば。
そちはなをれ。あれゆくよりこれ
男乃こうふくをのぎ給ふ。ひとりこそ十方
衆の苦の海中をうへふるこまちまちまちまち一
わの乃系をうせ。ひとりのちまちまちまちまちまちまちまちまち今のひえ
い山のふもとをうやまんぐん法ぐとられ給ふ。波止去法
ちりおのゆくるおこちぐまりいくこ。ちまやりかりと
るもりなるべしそれより人畜百万衆の母。教るまに中天
ちぐまりぐ園浄飯王えよ法誕し給ふ。六年十九よ
で二月上八の夜よりとりうとのぐまりいくこ。ちまりぐ

で。釈山より方を接。釈迦牟尼仏。
ちまのほとけ。ほとけ。三七日。遍小十
二年。そ浄土を離乃うんとりこ。二年。一実。
五百八十年。つるが。城度とぐ。ぶいのりる。双林
樹下小。とを。ちまりとりこ。ぐりけ八年。
左右。者位周西法界乃。ぬ祈。ぬ。ぬ。
法布の為。ひし。弟。教の国。ぬ。ぬ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

ちせ。はるうこうこのち。ちまで。ゑのとゝ。ゑんじ
とんとう。そしじは。地ごくのいの。仏とゝすべ。物をる
あとうゝ。めべて。祇そもこゝや。くるて。化ぶにゆく
わ。ゝとそれこゝろる。はたこゝろかい。色こゝひぎの
四神ごり。祇そる色よりしく。こゝやくこゝうぶふ
くらんとこゝひきるゝよ。東方浄瑠璃世界
教主薬師如来。ごんうぶ。ゝまり。ゝて。祇こ
大こゝひこゝんぎこゝひて。ゝお。ゝがいひこゝ
ゝをかゝり。ゝふ。ゝを。ゝ。ゝ。ゝ

とあそびくれ。秋月とすまし。たりてくるすはよ。光
明かく。くろ三河の日輪。弁財天中しらびとり。
をひろの中よ。秋西業神。祇園の三ゑもいろをる
らべて。ぜしのこころの三ゑもあるひいの傍能と祝て。
慢祈はなんで。大神と礼しをもくず方大菩薩
元故ろ。ろ。教生業の教ん是則我大神とかめ給
ふ。大神大きに礼敬ちろひて。祝ぐくいきの高
をさうんとちひろみよ。ゑるこ。くくくくくく
ろ三てんよ。ここのてんをろへ。ここの三てんよ。
くくのてんをそ。秋うちあ。家のあ法と
ゆるも。祝あのさびろうぐんをたをきんみよ。
山よ。ゑ。ひろ夫よかくまるゆ。
傳ろ。書張ろぐ。大神ゆ。ろをもつく。ゑ。
よ。異の三異よ。ここのてんをくくてゆをてゆ。
くくろ三てんよ。たくくのてんをくてゆ。
山ハ毛ゑ異ゆて。神ぞろかくち。ゑ。ゑ他ゆの
三ゑよ。法律くうちくをあくつ。法つる称号ちるべく
ゑそ。ゑ。祝を山まとあ。ゑ。ゑ。
祝ゆ。久を異ゑ。ゑ。ゑ。

いえんのうげんぞうふ[illegible]乃初[illegible]よわ[illegible]る。
をのく一ぬ[illegible]乃おやうどと長世[illegible]
ぐ。ぬぐらく[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ十一面観
[illegible]
[illegible]乃をうかうとわく。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ようやうこの旨を申さんで。北条左近将監高時入道
らこゝにみあをの乃陸奥と申門よ神妙ト思
ふ。一陸奥のひがことに心くひでと。新参を
ろうよ入ぬ。相人と色をあくれとちろさぶる
幸うまくひ。いとんや。十善乃ゑれ位授あくんよぬ
きうくうトさぐるべきたくくこの身の久敵のと
もぐ。かこれのこの心く地ゐをとうとき。武
将ちうくうとれ。左兵衛ちくをかとれト
ぐ。敵の軍ことのくんどるけとあぐ。くけく一乗
乃めりとからでうてまをひつききんゐ。
四方のゐあよふさおろうきものとあり。
と。内外乃犯殺あきうくに。おくくを蛮〜く
トされらきれば。ね軍左兵衛の者とでめちり。
高。上杉兵人拝宣流。よいうまぐ。さくいの門
あふし天下をちさしる事あるまでからけうと
信濃でさるうち長行あんどう乃外よ。武蔵ま
すまをとうくをの地をそうへらをける

太平記巻第十八終

太平記巻第十九

起建武三年六月
盡二年三月

初丁

▲光厳院殿主作の即位

文は元弘の乱よりも時代へ変りてとしつきを経ぬれども
なほ流離にてくらせし系図八幡宮を尊信なりしかば
いかにとかうする民のハうしひ心を作るとしるべしと

同丁

▲新将軍御任官事

文は延元元年よりの武徳天皇の御事
なりしかのよ背くより兄弟一時に亡ぶんでわが国の
くぐつの紙屋の一美女伯よりて一傾城と侍るべしと

同丁

▲新田義貞藤城お府城とす

文は義貞藤城金沢の城ぬ松山で業よ湊よ者
とし一ぶが空の兵平家るの乱法ぶ反ぶよ高一長四と
ちゐ一府三発ろ一也要害とん者ちして義貞ハ沙
て出れしと。細川お初る打て出ぬ者をこ者ハ紀ろ一
を助け勝負ろ人と初め友ぶ反ぶた地事り窮く後よ賀の
後と変ぶ一くりとつぶさふ侍りせり

同丁

▲金沢の京宮并将軍の文、池原式ます

文は文ハ京文ハ京文ハ京

大平記巻第十九

▲老武流後醍醐の御子宮方と成り給ふ事

宝民元年十月十日光武流の[illegible]

[illegible]

▲桐壺流の[illegible]勅使の事

[illegible]

▲奥州の[illegible]

[illegible]

▲奥州の[illegible]

[illegible]

▲青野原平事付囊洪背れ[illegible]事

[illegible]

▲老武流後醍醐の御子宮方と成り給ふ事

宝民元年十月十日光武流の[illegible]

[illegible]

▲桐壺流の[illegible]勅使の事

[illegible]

▲奥州の[illegible]

[illegible]

▲奥州の[illegible]

[illegible]

▲青野原平事付囊洪背れ[illegible]事

[illegible]

又日の宮関ふ宣旨さいしやうそるぬぬ上一の王一人
とうそ上ぬ位ふ位ふあぐりぬ長大納言ふ
稲の荷宮の社わふそ社ふそ社ふ
ぬぐぐうし名ぬ位ぬ人とこうこと位ぬ名ぬ
おさい相ふ位して日本の副しやうぐんやぬ位ぬ
そも 神名ふ名宮とうそれし 位ぬ名ぬ位ぬ
うぐうの宮人 神名ぬ神亀元年
宮宮 亀元 ふ名京の名ぬ位ぬ名京のわうん
代ぬうふぐうして名京の名ぬ位ぬ 緩 後時
名ぬ名やう 松尾の名ぬ位ぬ 人位の
兎坂の二の名ね間村 名ぬ位ぬ
名京の名ぬ位ぬ名ぬ名ぬ名ぬ
を 名ぬ名ぬ名ぬ 名ぬ名ぬ
源の名仲名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ
ぬうまぬ 人十六人 名ぬ名ぬ
名ぬ名ぬ名ぬ 名ぬ名ぬ 一村 名ぬ
うぐぬ名ぬ 名ぬ名ぬ
ぐぐ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ

ぐく四十三人ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ名ぬ
名ぬ名ぬ名ぬ名

きつ〜ぢ紙のうゝこゝとゝもなぎどりつゝしおもなこ
くまゝ〜こゝあゝいのそうお供と巡じて四辺のひもぐ
らとあつめれるお花つゝんまつき風ゝくとよ
らで高ゐとゝまをぐやくと。穂そ居お供と行ろろ
ちゝ〜おゝのそそぶあつゝくゝぬきゝくゝお花あつま
つゝろゐぐゝふるゆのぐゐんどゝそゝさゝゝしく
いゐゐれ。ぐりりいゐるゐりんくゐいゐゝがつゐ。
とゝゝじゝくゐつゐゐんゐゝん湯のそそ。ゐゐよ
ゝゝおゐゐおゐゐゐゐゐゐやぐゝしゐ和おゐゐゝれば。
わ第ゝゐ見ゝゝゝとゐりのもゐゐ湯ゐゐゐゐゐの
ちゐ人ゝとゐゐゝとゝゐゐゝゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐさと拾ゐゝゝえゐおのゐ分ゝゐでゐされゐゐゐ
くゝゐ粉月ゝゝゝふゐゐそ分ゐゐ粉ゐりゐゐまゐを
ゐゐゐいゐまゐ城ゝゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ずゐい西陣のゐゐひゐ湯ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
宮ゐゐ出ゝゝ松ゐふいゝゝゐの行ゐゐひまりゐゝゐ
おゐおゐゐの赤の行人ゐゐ地いゐのゐゐゐゐ。
ゐゐゐゐれれ以下の赤ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゝゐ行ゝいゐ分ゐゐゐゐゐゐ紙おのゐゐゐ。

のゐゐゐ湯ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
湯ゐゐ煮ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
氣ちの氣湯ゐ出ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
かゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐ

[illegible]れて、二わふうりわそ[illegible]
[illegible]ふうりうまじとそ[illegible]
とさ[illegible]ようさとばつあ[illegible]
[illegible]ふ城とうまん[illegible]
[illegible]ふうわふごとれる。[illegible]
るの[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]んが[illegible]とらさすと[illegible]
日[illegible]ゆくとわ[illegible]
いまごあり[illegible]
て、二月中旬ふを[illegible]
[illegible]て、[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ふ

おなじのこと　ふうつるまいぶけのふうこざせ。
那五ふ白つく　敵ふくらんぶ海ふ幻と先ぶそ。
敵うつく　持ふのうべしぷうこの客我ハふ西よ
出ふつ　ゆるまこうたとこわのぶ方こんとちうぐ。
ちうまく　張ふ　しばこえうそぐ山辺のちうふう更
とうもう　客我うそとうしぷうをうしぷうをとんん
バ。屋場　ふれたつをきまうつく。ふる赤。うこう。
まう福。ひしのちうもこ千ようわようちとうけそ。福
えうんちとうぐをうぷわこのうをうけそうりとそ。
すうつ雑ぶのうふ軍のうろうぷくを客をそ
ぶ方ふかとわうをうしそぷうのえくこのうわぐん
やムうふうぐ。ちぶ氏ぷのこゆまうこ員ぷこうこ
あて雑　白の前うつうをふう一家のかねゆこ
こうわ氏こ百うこあそ。他わうりあらうぐう
う神ちのちを空弟かぐのち西ぷ百うこそ
ふはるの嫁うりうをうろぷ氏こ百うこうぷ福
の嫁うりとうひ河氏ぷをの記人性彩ぷこ百
ようこあてこうこの嫁うりハをふり。地天ねた
ゆねこうこうぐわ氏ぷふうこうこあて祀ふうりぐ。

れる。会稽のお山おりしくえて。ひとのこゝろ
こゝろの山へ入るまゝ。ゆきしくれいまぞ冴
ぐるふかしろ。山方こすゑ。尾張のちこゝろ
海。同いろのおもてみゆるこゝと。楽して。あるこゝろの
へ。あらこゝろ海わひさるこゝ。十五町。中ふひこゝの
いとゞそつけ門さゝとのこゝろのこゝろ。
わうこゝもこゝにこゝまして。波こゝるゝ。岩とゝ
こゝ。ふこゝ。海。とこゝ。ひこゝていづくとこゝ。
まゝし。岩く。牧。こゝ。ふこゝ。田。こゝ。ふこゝ。
ゝこゝ。こゝの。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
ていこゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こ

[illegible]

▲宮ガ俤の事ニ[illegible]

新田ノ一党[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又ちうわ軍のこゝぺいくやどゝおくれいくれとも
くまびいわるとしんるゆさきとそとやのぶくこ
しふおつまと伽さみずしいてるすーぺーつく
わうり法つるあこ事ゆ法のゆ手ぶいるうんを
ろうぬ人をまりろうぶ果して毒がいとれ
法ゆるこしてうつぎられ

▲法こてくこ方ゆうこの事

まとしさんつうりこをまゆるぶ俗まて
こる付ぬと拔ゆこるれぶいふてこび
ゆ感み拔をんうゆとこ世こよいわしどせこ
ゆつくりひさこわろこ先ての又ら結の林
結と考して古井へやんあうろ人うこ拔わ
ぬすでふ拔方ゆこの家ゆと乗して新ゆ安
みれあつりしゆしられいぶつうら深ゆ
てした鈴さまの四郎ぶいうの妻へ
ぶんこ徒がみれしり言てぶまとれこ
ぐんこんは国ゆろのへ
あよりを来てにこ年ん
らのこゆふちわこてう

ゆふ御ぶりまのゆゆりおおこれる田の話
と結て母生のゆもぶふ城らくと接へふりは
ゆと拔ふゆぶこをこのゆみれおは法のこと結
こまいくをておくのふふこそこうらのえ治
ゆの高へゆうふ紀法ゆこうあ百ゆこと連
て古井へりをこゆれいぶ四ぬとすてゆうふゆ
と考こふえいんゆこて刑そとこ法ゆこ
ま宮法のれゆふぞゆこれろけみぶゆ八ん考
うこゆうゆ紀ゆこしのこゆしふぶんこい四ら
の功ふらう貞とんこの家法ゆ竜ゆくいゆとく
らゆて赤物のつゆことのべ瀬ゆ色ゆちとこく。
こんぐのゆらびゆこうゆ年こゆうこびゆり殺
人りる

▲さゆくこ法ふ河ゆちうくゆんのる
生こ亡さゆくこ人ゆらふんゆ法男さゆくこ法ふ河ゆ
て系さちまゆらふ亡びゆ法ふゆとゆて法ゆ池
よぬさふくこてゆ男とくこくふ安こふゆりしう
ばこゆの強法ゆこの法法ふ一和二和と河こて。
これゆりこゆりゆゆゆこゆ法ゆと言ゆ法ゆく

まいりをてゆ一人ゝるるゝ。ぞ釈ゝる時はいかにゝ
とゝゝきまくずて。法わふ源をとらゝくゝんの長
えゝりさ。法しゝいてゝそゝ様の理ふわゝるゝと
なずゝふゝるて。時約一ゝんと云と恨しゃんわ
とはいゝずゝえん法ふ勢ゝ冥ゝ者とゝし。ゝゝ氏
いちゝゝとゝ義とゝゝ代ゝ人ゝゝゝ事ゝ勅ゝふ
ゝゝく。法ゝ対とゝゝゝくゝゝゝゝゝ情ゝりとゝ典
ふゝゝれゝゝひゝゝふゝゝ。ゝゝ氏ゝゝゝふゝ勅ゝゝ
ゝゝゝ威とゝゝ義のゝふ俗ゝ世とゝ遠の中
ふゝゝんと全ゝゝゝん弟ゝゝゝゝゝれ。
推ゝゝ氏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ者ふゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すふゝゝゝとゝて南氣の氏族ら悪敬と坐
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
義ぎんゝゝとゝゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲奥州の御方の事

陸奥の国の住人小島の源中納言親房の子息

奥州の御方小島の源中納言親房の子息

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もとよりて奥州の勢十万騎さつるぬかれて。
きつこみそまの海とぶらまよひて八万騎うせ。
同時ゆきてくし宮でぬ。河中ゆきて御方くしぬ。
とぶられ先ゐまふこうつる。奥州のくに。
京の源氏をとれくぬ。西国のみのりくさ。
わさう殿つくさくのみくるまぶ。ゆくくるまぶ。
先海うゆうくるくとくしやれく。
うくゆぬまぶくぬゆぶれ。法ちんの勢いもと
くてうゆりくやぬひくん。河中ちう河くして。
手勢ゆくくて。鎌ひくるぶ。河ちくるぬれば。
大河ぶくうゆくをちくしられてぬるゆくぬ。
くるぬ。ゆくくゆ川の宮鎌ゆくぬくゆ
ゆく法ちふうくくくくぬまくくふるぬゆ八
くゆの勢りをゆまくぬくんのゆりくゆ
くゆくぬ。武蔵の勢ゆくぬ。
くふりゆくくの鎌とぬくうぶひ実ぬひくるゆ
くゆふふうくのくぬたゆくくんつる。紀清ゆくく
ゆくくゆくゆぬ。ゆりをくくくくるぬくれども勢
ぬくくゆ清大ぬぶんくくくくゆ。ゆりゆふくくくぬ。

くゆゆりゆゆりゆゆり

門の宮殿のほとりに乳と米のてたまつる所
ちりぬるを鶴はいとゆゆしのあつぱらよく猶ぞ
あるりいるのぬかつくれて鶴ふたつもとめ
ぐしつ毒殺ぐつ門西のて米八つくの
勢ぐつ水付しこそ付のろ遠ふちさひい
くこの安吉とりしつて鶴ぐつぐつぐ
しこの浮そこのこわつくまこふすじく
きこくこうこ勢はこふみろり
▲奥勢のわこと遠てろくうちんのろ
大殿さまのつこ殿はこはつぐふナ果ろぱ
まこ思ふ西のぐこ付ぐこあてとおわをぐり
ろぐつぐこ付浮ことこ浮のこぐもく
こ八西このこ米九おかしぬ米ろ豆ぐ手ろ
殺あこ八ぐ方まけぬろまこ殿こぐつぐこ
八軍とをぬのふこてこてあこ八ぐやこ殺
のり米のあかこてこまりくこぬてふを
ふぐこ殺大勢こ遠ぐて宮ふて一いくこも
ちぐこんハ浜紙のぐまぐこくこて殺のわこを
こんり殺西紙ろりこれぐこくこひこくこわ浜ふ

ち殺ろとここくこ八浜西つこくこうんふぐる
ろこハ付こぐこ殺ぐくこぐ殺はちこ
やふつく安殿ろこの五八とり西ここ殺の
五八ふ浜ぐくこ殺こ殺ぐ浜ふ殺ぐ
美ここんふぐまぐろ殺とこさぐこんこ浜まる
ふ米ふわこて米ひろまぐ殺ひ
こくぐこてこふりぐまこれて殺ハころ殺る
ろこのろるりこ一個ふ西ひ切てこ西こ中
わこりこぐ殺一分ここふわこぐこりこん
ろここて西日ふつこ浜ちの九ここ八付ゆこ
ろつこの紀浜ふまここ八九こまこ殺ろ中
二月廿八日ふ浜方ここ殺しこ米こ西こ
で米ころころこまこふわ殺の殺ろ米のく。
遠ろこつこ軍こつぐしこ米ふこ西ひころ
こりこれぐ浜ろここふぐこ浜ここ殺ふ殺
ろこ米ここ殺一分こここ浜くこ殺ふ
ろくふ出米ここ米一日ここてどのつく
月殺ろ行こ手殺ひころわぐふこ方の殺
ふ西つまここぐ西ふこ殺ろ殺こ中

きびがし洲とり軍やぶれて京をおちぶ
れ給へりとをひろ方とりこしてぞ聞
まりしうばがをて若八幡
らるーぐてハ始終うるまのぐーれえくぐりけ
まびたゆるさまの形をとくとくしをてそうそ
枝ぶりけのぐトのくをぐらるるのくふるくぐ
落られるぐらるー落ハ東の谷方ふもさ
ぐひけるくんのめーぐおくーりしく
てぐるの国うるくぐくーくて。あ日ふくもの所
四下四月八日のまくるくとをて東と国ぐつぐ
ふるーぐくぐもぐくーくぐ。ぐ日ぐ
ぐ所ぐ国ぐくくーくて東ぐふりくくりぐ
ひくくのくんびすくるきバ法ぐの東屋を長法
神ゆ仏くくとやくさおふ数ぐてけ物のくら
国ぐくる法ぐ屋とくーくて法ぐくくくーく。
ちるの一ぐくものくくびあ来の一くくもるり
くるぐん洲ぐくくふ尾法のわくくよ行をれど。
法国日くくの法尾法のくくぬ而ふくふてくを
法国日くくの法尾法のくくぬ而ふくふてくを

ゆくくさゆて法くくるくくく

ろろ人のくすのまろこつまをはちぶんこせう
ぶをでかりうさまそ沈船りうぶ西日の船ゑ千万
ぶぶおというひでぶ軍と対ちまんとよ法すれ
ぶるぶ人ぶりのみぶ船ハかうこと西日と対ん
と助ふ付てとうそ行蟠らう蛭とうぐぐぶ北
ちうこうらうと伊ゑこ蔵みぶんろ西のこと
へぶふりしろひられうち

▲あとのぶ京軍のるけのくしや背おけ
ぶ船ふうらの法政の船。このあまついて法こと
ろうハぶ軍ハ宮てうらぶきこの船とのけさぶ
ちくあうんすんこ法すいあるの船ハとここ
ゑて法おのとくんろぶ一ぶそけうここの船ろ
ちのつのへゑ筆そ西日の船とお法ふち表
んふ法ふとここかふぬつぐしこ上われうら
とち後ふうちこりぶ法ふくくかそ
を見のぶとお上とう敵とた船ゑきこ上て表
の一とを対すて法上ハのつろ人ふのんる
をまうこんゑハて敵この家ゑう船とろろは
ハまうとうぶくうひふうろぶりえとの

人口さしけ一ぎりふ。ふ。ぐ。ー。ぷ。ぷ。ん。ん。ん

とらて行ぬ。ぬ。ぬ。

つとぞひとりかたらひ行の翁とかたりつゝ歌と
やまとことばとをまぜてかたりもうまうさ
ゝるとくりかへしぶ。神泉のこうりうぜ。
只素しとやうされるうぶ。ゆくゝ
歌ゝ歌うとなる時。ゆらとこの橋とりて歌ふ
ゆゝ。物語。物語。
高さんすくいうる。
と四方ゆくゝ歌ゆのゆ。ゆくゝ
と高紙しとれとをふゆゝ。ゆゝの橋とふ
てゆりとゆくゝうらとこの橋とゆゝ。
ゆゝのゆゝゆゝゆゝ。
けて。ゆゝゆゝ。
ひとゝ。ゆゝゆゝ。
ゆゝゆゝゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。

すて沙弥をかをくろふ。雑信はまぎれしらるよ
ろこびあへる。楊と撫わくしあと并こつくぐ
推しりそこへ逃るものこのうまぐさかわと初て。
去年一月を引ひくくこゝを付たとうくあさん
うのつくるるうつ。松あをくきびれのちをに
ナカをかをてとーうと。敬をかをあ物ろうくわぐろ
て。我のとを付かをよんんん。そ物さん物ゝき
ゐちとうりんび。無ろとんんーんづちくこのよ
ゝ。一ろとひゝぐゐとあくをつ。一物ひろ紅よ。
びれくらまちふかまをて。ぐうくちをカ人よ
ゞうと無すあそーちも西沼とうひ沼とんぐそ
くゝをまぐそ人敬ゝうとうくあるゝへーと。楊とれ
てゞかくうろ。沼のをつかのつくゝこうひつゞ
ゐ沼れの沼へうとんとしくろあ。えんしんをを
とあつかをそくろハ。物ゐんかをくくをぬかくるも
つふのをれとをくくをかくろふ物とつきくく
物ゞーくくぐとを物ーくろぐをくくをゐくるゐ
とゐひあゞゞたれのゐれかをてくきてゞ。ををてゞ
物ふの粘米とをすてゝ。をくろあ物とゐをそ

びれゞんくぐとーくをくろ。物かをくろれう
沼の物とくろかをゐ沼とくろひ沼とゞ
くるのくをとをゞ。くくんくをれをくをゐ
沼れくりくるけ付ん人くくをくくをかのすをを
くろとゐくよるのをくくをゐ。をくくをかをすくくを
とくくくかをゐ沼ゐくゐ沼のゞくーびれのをを
ゞ。沼の物とくくかをゐ。ゐををくくをぬをゞ物ハ結
よんくくをくくをーとゐくんくをくをゐのくて物
くくをふくを紅のくくをくのくくゞ付とくくーくゐ
て物くくをれゞ。我ゐをれのびれのをくくを
くくゞくくくをゐかをとゐをくくをくれかくくをと
をゐゞをくをゐ作ゞ。をゐ沼くくゐれのくくり半ーくゐ
くくりゞ。ゐ沼ゐくゞくくくをくくゞ。敬とをゐ
くくりくゐをくゞ。ゞゐ沼とくくをくくゐふ物ーくゞ
の西沼ゐ沼とれくくくゞ。ゞくくくをくくゞ
つをくくゞくくびくん作ゞくくく

とらてらんこうふしこうぶしけえらぜんの
あよ新田義貞ゆ。わうくみとちくぐてえ
とやぐし地と思ふてふいきわひちこうんせあ。
ふこう地の河とうくうんる新田義貞
ふり新田へ打こしてふいきわちんとひくふ。
ひえいらのふうらのがり。河あくとこのちふこと巳
て。前方百の者宜しく候。一宮をとをあらうこれと
とちべ。わ軍ふ新田義貞ふ一日もうんあんをふうじと
ふえ。と。新田の郎ふ。ふ。ふ。

太平記 第十九

太平記 第十九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てぞ[illegible]れ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

▲馬凡物初度軍の付足利尾張の事
▲越後勢打わる越前の事
▲宸筆の勅書義貞の下さるる事
▲義貞山門の牒状同返牒の事

十四丁
▲八幡炎上の事

十五丁
▲義貞重ねて忠臣合戦の事　付平泉寺洞伏の事

十六丁
▲義貞義興の事　付諸葛孔明の事

十七丁
▲義貞の馬属強せる事

十八丁
▲義貞自害の事

十九丁
▲義助重て敗軍を集る事

二十丁
▲義貞の首獄門に懸る事　付南朝内侍の事

二十一丁
▲奥州下向の勅使新田風を遂ける事

代なる文に貞付元の比南方まへと下文に上失ひ給
ふよ結城上野へ発奥州の勢とも合こんとて才八
天をもちまして伊勢の国より出船せ一ぬ遠州浦
より悪風吹都と。兵船ちりぐるまぬ。唐の方船
伊勢の神風の浦へ吹もどしこうるとて飛こう

附四十

結城入道地獄より帰る事

代なる文に結城入道が死も。同じく伊勢の神風
吹付。強盗ども入道病死せ一ぬ。山入た者ども恐迷な
りし所。怒地獄へ墮落せ一ぬ。入道。俳徊の間
のあらうたてこうしるまあるそう

▲元の使初て来る付元朝より
新田左兵衛佐義貞の使。去る二月の始ふ。
京中に宮様ふうら様ひ。初まる。
城七千ばかりにて。四方より
ふるりぬ。元の使
四しんと。
そもそも方の
らまんとふ
とりのるる
ら物ていまし
寺会ると
事と沼ふ
ちねば
事へ
たおへ
城と
うでし
まら物

[illegible]

▲新田義貞の事

[illegible]

[illegible]

▲宸筆の勅書[illegible]

[illegible]

さういの名刹とさしてとひて。名刹の名誉とり
つくわすつゝしく作らまてぬ。宮殿の勅立とて下
されて。名所名勝に勅立とねんして。法華経
の書写供養とゝ。ひとしいふえ。宮殿の勅立
とりそれいろ。ほいもつこ。宮殿ぐるわるり。そ西宮勅
ぐいの面目ありぬ。ゝゝ。宮殿と作んぞ。ぐんぞ。ぐりゝ
いづれこの時とゝ。勅立。ぐゝゝ。ぐゝゝ。ぐゝゝ

らばてあれどもそんやさえ元弘の始一天家と草むす。
四海凡夫なるの後源氏の嫡家を武士に[illegible]
者ども[illegible]ふたゝび[illegible]と金を打ふりすてゝ[illegible]
ふ月卿雲客の[illegible]ふ[illegible]る。[illegible]
忽ち[illegible]の[illegible]と[illegible]て[illegible]ふ[illegible]
軒ふ宮[illegible]ふ流ふ[illegible]
[illegible]て[illegible]ふ[illegible]と[illegible]
[illegible]の月と[illegible]
[illegible]時[illegible]忽ち[illegible]と[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やりさの左衛門と名のりて。高紀の[illegible]
わ紀ずしとぞ。その長紀のさの[illegible]
さろ。所[illegible]
そ[illegible]
[illegible]
つ[illegible]
わ[illegible]
[illegible]
[illegible]

そしてんしゃうくるに打ふしてそとうそ敷の物
頭敷ゝりを打ぬしゝくやらひちんぷくくちづまり
ぬくるれのたるを出時ゝ目ぶべ。雖れ打ーむぐふ
あびぶそ一敷ーて敷ふるまんしいまくふと
ゐくゝく走きそてそびふゐゐたるの云へ
して指ゝる打ゐる。とゐゐくゝし抗ー敷のむーろ
てゐゐゐ中ゝ。ゐるへ切ゐたゐのゐゐゐゐゐ
み投ゐゐゐゐゐゐゐ投ゐのゐれ。むゐみゐゐ
まこ。ゐゐ事ゐとーとゐゐゐゐゐ。ゐ見ふ事ゐこ
へゐゐび高ゐれ八己ゐゐゐ力ゐゐ力ふゐゐゐつぬゐれ
て敷とゐゐーゐ敷とゐゐゐ。ゐゐの煮ゐゐゐ云
投とゐんゐ。ゐ投ゐゐふ事ゐゐとゐゐれぬゐゐん
ゐやゐゐの。ゐの。ゐふゐゐゐてゐゐそ投ゐが
ハゐゐ。ゐ事ゐ多みゐゐゐりゐとゐゐーゐ。ゐ
ゐゐゐゐ。ゐ投ふゐゐゐ事ゐゐゐゐゐゐゐ。ゐの。を
いゐ。ゐゐふ八橋山の事ゐゐゐゐゐゐゐゐゐと
ゐゐれ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐ投ゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
事ゐ事ゐ事ゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あとをたのめ氏とおもひ大位とい
しかばとて一切とはなそ作りもこれば
ものあれば
あふ縄のなりて
えもとも流して
し吹びかふ
侯しまうれしうば
わいろとらうとて
むでしかんてうんば
可る伸立
蜀のうら
ものふ
ぎの
ぎ
ぎ
ぎ

▲第六のるつきすもいの事

同七月二日わすの事なりしかまくらにてうりそれば
中の夜の中第六の伊ぶの宮の夜くのうをあつまりけ
るに　ぶあくうをもやしまあのごとし　大ねの新田左中
将義貞ハ赤地の錦の直垂ひたたれ　紫色の
胴とをしたる赤地の錦の直垂ひたたれ　紫色の
胴とをしたる赤地の錦の直垂ひたたれ　紫色の
胴とをしたる

▲事実おいのゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てしてたゞの功とはなしがたし。自らさしりを
ゝ新場小勢にて。さまの矢ぢりふ者とゝぶん
る。軍の拵ありしうちのぐ。富士人うり。半たるう。
軍女じて後。邪中勢の。尾張のちのあゝ
まて。さまこゝ。新田義の。はこれ。こゝ。
と付て。前とゝ。ゝ。作。こゝ。
とゝぶちりひゝ。たゞ。の。ぐの。拵。
のちぐいとして。拵と切り。付ぐと仕りひつゝ。
いゝ。陸奥さの。紫むしゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

あいしの事

新田左兵衛の督殿の御子に、義興と申しし人、武蔵の国の住人、矢口の渡にて、誅せられ給ひしかば、その御子、義興の御子

の後ふりつるまでにうく　たゝ
うぐそでのをぐふゆぐろうもどぐぶ
あしぐくりわの月やすみ〳〵ん
とうゝそでつたされうれんば　あの　をれんす
を　ゆ　ぐ　ぐ　ぐ

四方八方とこそあまの猟やふ角とうしたるんが。
とりやうぐし生れてうくるとんふまりんぢん
とぢてくるのび弱ちふ祖之手のまちいちわさ
物ぢやうぢ清まく付まひぬくまいしぢぢひ
のちふおしとくておイまでの表をうやわ
うとんし弱さちづし作ひーえくんぶふくぬ
夢の月ちまびたのふ神とり清ぐこしおまう
あふふりぢわと離ちおりりうこう日ちりぢ
てまくとをとぢ中ぐこひ作ひくれ大ぢの行ち
ちすしびみんのりひちちんぢふれりりれど
こ時のまづとけとぢぶひのおりまとて五月
とくりぢひくりぢぢまれの焼おいまういの行
ちちづくまのぬまびくて意のんとよをれ
ちりくれぢ四方八ひくちしりぢちぢくしりぢ
ふまつるが俄ふ形のぬくりんしてぢすづ
ぢひまてちりつき作ひわれ中おいわチを
まふくむうひ作ひちりくて意ふんをみりけ
まびぢまひちうこーのみりえとまりて焼づ
の焼とくちう作ちふおぶちちぢ作ちつのぢち。

ちこ中まて行宮ちりくうぶちまりちんでとう。
こーのぬわの五ぢてそいりびくーて四海りちん。
物四方八時くの意ふぬすとまわまて付れさと
作ひてちくぢと黒び泥とりりくとこやをび四
作のつびぢ。ちいりうりう意の犯ぢつく掲ちさぐう
こも清て中く潤も流中び嘆の中ふう流く
て書ていれまくまくんの付き作ひつーん神意の
書まの象のてこふと月とチてるてうまう。
さのこいい清き生ぢーじぢふ清と黒ちんこふ
こ知こ作てぢちりーぢこちゆをくてこちぢ
又松のぢで中一の五意手をちちそぢひやぢ中わ
五の作こひーふちりくて中ちぢ中とー殺ーち清
まの四とこ作ぢびぢちるのこちぢこのまの
作まぢでもぢで物ぢいりとぢ。まこれうちの生
とのくぢちちりこすてくれうりぢふそーこ
又とこちちふ分てこいくこちくこの清く四作ぢ
んぬとちぐこしびこ方ちのーねぢ中わの作ぢて
作ひ一作ちまこ方ちふて中作の作ちちりこく。
ちこ作ちとも早ぢ中くそーちちふ。ぢてこ意。

を殺くめて歌のとうぐらをまもりしうぶ。藏のかも
くらかりうぐいとそ殺ぞ人をくちをきり。行わ
ちのかくり。まつくすう和のこまこうぶ行ぞぬわうこ
りきこのこ和おすくとこさまろ。祝もつくをこてこび
あもこの行ぞわとこまりふいんうん神しやれそこづ
くあこ角と落ふのうろぐをこうぐとさ殺ぞこ人
の行まとう殺ぞ落ぬのあうくあ角へろ行
よ人わまうここわのそ。おみ殺きうんどいつとと
すると行るおくとこうくじまつてこれ行ぐう
ちれうふうぐひ行てわうぐゆ巳彩面ちまれ
ちのうくとぐくつの赤このうまれて明ふこうち
妻ぐう門行の高えとうこめえこ行ぐ子ぐく
傳ううつめうぐの除こ注こうまぐ行ひうう。行ぐ子
ぬ巳えとこそ。ちよ泊と清さぬくあうう。
見及ふ生ぐれ。こ母ぐ殺ぐきんうちとみえんぐよ
りきこうわめ者のちくふ法しられておりこうと
そう辺ちう行場のひぐりおまう法痛ちてさ
と行いいふくて関いぐうひくなれいまうこう
て現まの殺ぐとうりとうぐ法。ちう

[illegible]

▲奥州ヨリ雲霧風ヲ吹テ来ル事

去程ニ奥州ノ[illegible]ハ、[illegible]ヲ吹テ、[illegible]ヲ[illegible]カトシ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

風と行くうち[illegible]二日の青い風でいくも
はまつくいこしふちづうさうくれば舟へし
ものづかとなるそ[illegible]ものもいわぬと思すと[illegible]
百ちそくくらいの出来船と中みくそこをはせ突
行くとくろけ小海とあいうあるあきてこ
うみこ匂ふこころどもさくそ[illegible]わうひいわれと思
わらまて行船まて張ら中とも[illegible]ぞ[illegible]ハうらとう記
とうて[illegible]流おこうふあちをこうるまこ[illegible]ぞ
わくあて[illegible]方あ[illegible]と[illegible]てこうりくれば[illegible]の大
海ぱくくこの漂ふ[illegible]門こ流ゆ井の流ぱくこうくくの
海ふ舟の[illegible]ちくれぬ[illegible]ふ[illegible]
ふてこう。潮こくこ大津ふ[illegible]ふくこ
ちんとくくくわるまえ[illegible]くゆくこう貝[illegible]ひの
へこれ[illegible]て[illegible]てくくこ[illegible]風ふ[illegible]ふ[illegible]て千ぱ
まあ西北風の流へ吹りこくくこ[illegible]ぞ
行方ともしこ[illegible]よ[illegible]出ふ[illegible]ぐり回ってんの
わうこふくくいものあへふ[illegible]ふ[illegible]
る。こてこふ北ぱくくこ[illegible]けこくくこ絶ふいの[illegible]
みふの天[illegible]とふまを[illegible]ふ[illegible]こ[illegible]

[illegible]だ神のちゆうれくくのうちとして。知わく
[illegible]の出りの[illegible]とやうられ[illegible]
へまつくをられくくふ果してもえ[illegible]
後ろ方の大[illegible]の出[illegible]どうぐを[illegible]ひ[illegible]西北の
約[illegible]とやまりくくぱすふ[illegible]
▲ゆっきへ[illegible]ぐくふ[illegible]
中ふとゆっきと[illegible]舟へ[illegible]
くふされて。[illegible]こくくふゆ[illegible]ぞ日
こ[illegible]くり流ふ方海の[illegible]ふ海[illegible]くくをつ[illegible]
とうくくとえくくぐ風すと[illegible]ぞ[illegible]
のわのくはへぐ[illegible]れくくふ。[illegible]て十くの日と
海て後。ふと裏[illegible]へくくん[illegible]流りの[illegible]と結
くくふふ。[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
ぐ。[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]ぞ[illegible]
ひ[illegible]ふ[illegible]ぱ[illegible]
ぱくくい出[illegible]の日[illegible]
て流[illegible]の出のぞ[illegible]
移[illegible]のくのうちふ。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のくるわふ先の車ふ花人と二人のをとこ。半ばめづの
花見遊しに行てこらうとうり来れば。行て見れば見
花見。後の廻のびんなのやうなどを屋ふ重てごとうつま
け花人と云て作ふふもこそうふみろうひの廻と
きて。後の花見遊と言しひちと伸てえいつをと
句えのやうと押ふ廻のかうら面の流ぐうふ。神と
流ぐ地。そとをとこたるる鉄の横ふ入わつめこれば。
往ふく十分ふ流てこうりうるる面と浸きろい
ろのやうちふ。こ後この廻と言傳て紙のやふ押平
ちくう花人と鉄のくしふ格者さ。実のようふそと
きてぢ色しくわづくぢ色高人の関係と調すろふ
美ふ。ぢ。紙わづり乾して後又廻のようふ押平めて
らん力ふ鉄のまま地と丸流て。すくしわそとかさい
て。廻の紙きの中へ投入うとうとうつめづのひきとん
て。流くと唱てそと鉄ろふ花人包ふ藤てと
りの形ふ時ふおわうらきろ鉄のちくとれて花
人ふ匂ひ。出まろ匂と句れ。花人と考て立地ぐ地
ぐふ船手。地ぐ地と流と考て。花人しまふ考
らきて。流んとすれ流ふ。後先眠とぐすれふ

ぬんとすれ流ふ句手鉄丸のんとふさぐ丸ふ考ふ所
のぐぎんと流木ふ。ふ地ふ。ぐ。ふ後の後を
とて。現とうれ四手ふいと。鉄めろんに。ぐ
考れば立人の山体ふ句。そ。そ八いふ花人ふ後ふ
ぬ考。ぬうんとぬうれば。ふ体のそそ社畏列の
後人流流ふ形ふとや考ぬ。ぬをみ考て考て。
わび地ぐふ流て。ぬ考を。ふ考ふ。ふ考の
方考の山流ふて山流ふ。ぬのさ。ぬ。ふ百
後ぬ。ぐふ。て。ぐ。ぐ。ぐ

八幡町
加藤與八